幡枝八幡宮〔同所の丑寅小山の上にあり、祭る所石清水と同じ。当村の号は此勧請によるなり、年歴詳ならず〕

粟穂辨財天社〔野中村の路のかたはら西側にあり、祭る所は弘法の作の辨財天女を安置す。伝云、此天女当地影向のはじめは、むかし村老の夢に美女忽然として枕上に来つていふ、われは此河上にすむ弁財天なり、家は西方にあつてこゝろは東方にかよふ、鞍馬寺の毘沙門天と誓約あるをもつて、居を多門天の近隣にしめて王城を守護す、此ところはすなはち福徳円満の地なり、われをこゝにとゞめば福栄なんと。告終てさめて後奇異のおもひをなして、河のほとりにいづるに、六寸の白蛇粟の穂に坐せり。一村衆議してまづ仮殿にうつし、其後社壇を造つて鎮坐しけり、これを客人粟穂御前となづけたり。時に永享二年九月九日の夜の霊夢とぞ、応験ます〳〵新なり〕

神明宮〔同所辨天社のひがしにあり。祭神、天照太神、社殿の茅葺いと神さびて、めぐりの樹林蓊鬱とし、鈴の音は玲瓏ときこえて、いと深々たる霊園なり〕

立田社〔同所道のかたはらにあり、神伝詳ならず、土人産砂神とす〕

福惜毘社門堂〔同所立田の北にあり。近年あらためて福富と称す。世の諺にいふ、此多門天は福ををしみて、鞍馬寺の多門天に参詣してさづかりかへる福を此所にてうばひとゞめらるゝといふ、此ゆゑに鞍馬参詣の人は此所の東の道を通るなり。由縁不レ詳〕

巷辻〔毘沙門天堂の傍にあり。これより北はくらま木船にいたり、右の方は静原にいたるちまたなり〕

静原〔ちまたの辻より十町余にあり、此所山間にして南北にわたり人家多し〕

山家集　山がつの住方みゆるわたり哉冬にあせ行静原の里　西行

薬王坂〔しづはらより大原にこゆる坂なり。土人やつこ坂、あるひはやこう坂と云。土佐坊昌俊京より此所に逃来りしなり〕

源平盛衰記云　昌俊は大原路にかゝり、龍華越をこゝろざし、北山をさして落けるが、軍兵二手三手にさしまはし、前をきつてのべやらず。昌俊大原より薬王坂をこえ鞍馬山ににげ籠る。已上巻四十六十三丁。龍華越は大原の北近江路にあり〕

小野皇太后宮の旧跡

〔此ほとりにありしとなり、旧趾詳ならず、後人考あるべし。后宮は後冷泉院の后にして、宇治関白頼通公の第三の女なり、御諱は観子〕

続世継物語云　三の君は後冷泉院の女御に参りて后に立給ひて皇后宮と申しき。後に皇太后宮にあがりて承保元年の秋御ぐしおろし給ひて、后の位にてひえの山のふもと小野といふ里に籠ゐさせ給ひて、都の外におこなひすまし給へり。（下略）